
一般論文

短期大学学生の音楽志向・スポーツ志向・性格特性の関連性の分析 —精神的持久力に着目して—

Analysis of Relationship between Music Consciousness, Sports Consciousness and Characteristic Features of Junior College Students —Focusing on Mental Endurance—

澤田 優子, 澤田 紀子, 澤田 孝二

SAWADA Yuko, SAWADA Noriko, SAWADA Koji

概要

学生の精神的持久力の高さと音楽志向・スポーツ志向の関連性の分析を通して、(1)持久群は対照群に比べて、音楽を聴くことを好む者、歌を歌うことを好む者、楽器の演奏を好む者、これまで音楽の成績が良かった者が多い傾向にあること、(2)聴くことの好きな音楽のジャンルは、両群とも「Jポップ」が最も多いが、その比率は持久群で高いこと、(3)歌うことが好きな音楽のジャンルは、両群とも「Jポップ」という回答が最も多いこと、(4)演奏することが好きな楽器の種類は、両群とも「ピアノ」という回答が最も多いが、その比率は持久群で高いこと、(5)持久群は対照群に比べて、スポーツへの関心が高い者、スポーツの実践を好む者、これまで体育の成績が良かった者が多いこと、(6)最も関心のあるスポーツは、持久群が「バレーボール」、対照群が「サッカー」と違いがみられること、(7)実際に取り組んでみたいスポーツの上位の種目は、両群で順位などに多少違いがみられること、などが明らかになった。

キーワード：精神的持久力、音楽志向、スポーツ志向

1. はじめに

筆者らは、短期大学学生を対象として音楽志向、スポーツ志向、性格特性の関連性についての調査を実施しており、第1報¹⁾においては、音楽への興味が高い者ほど音楽への取り組みが積極的で、音楽の成績も良い傾向にあることや、スポーツへの関心の高い者ほどスポーツに積極的に取り組み、体育の成績も良い傾向にあること、活発・協調的・ねばり強い・明朗などの性格特性をもつ者ではそうでない者に比べて、スポーツへの関心が高く、スポーツ実践を好む傾向にあることなどを報告した。

第2報²⁾においては、活動性の高い者はそうでない者に比べて、音楽を聴くことを好む者、歌を

歌うことを好む者、これまで音楽の成績が良かった者が多い傾向にあること、スポーツへの関心が高い者、スポーツの実践を好む者、これまで体育の成績が良かった者が多い傾向にあることなどを報告した。

第3報³⁾においては、協調性の高い者はそうでない者に比べて、音楽を聴くことを好む者、歌を歌うことを好む者、これまで音楽の成績が良かった者が多い傾向にあること、スポーツへの関心が高い者、スポーツの実践を好む者、これまで体育の成績が良かった者が多い傾向にあることなどを報告した。

第4報⁴⁾においては、気分の安定性の高い者とそうでない者で、音楽を聴くことの好き嫌い、楽器の演奏の好き嫌い、スポーツへの関心の高さの

いずれも両者で大きな違いはみられないこと、スポーツ実践を好む者の比率は、気分の安定している者のほうがやや高いことなどを報告した。

本研究においては、性格特性のうち精神的持久力の高さに着目し、精神的持久力の高い者とそうでない者で、音楽志向やスポーツ志向に違いがないかどうかを調べることにした。

音楽能力と運動能力の関連性、音楽聴取の運動能力やスポーツ活動への影響、音楽の好みと性格特性の関連性等についての先行研究には、岡⁵⁾による中学生の音楽的能力と運動能力の関係についての研究、麻⁶⁾による音楽聴取と身体運動能力の関連性についての研究、杵⁷⁾によるスポーツ実者の音楽聴取による効果についての研究、広瀬⁸⁾による大学生の音楽の好みと性格の関連性についての研究などがある。

2. 方 法

2017年5月に保育系短期大学学生159名を対象として、音楽志向、スポーツ志向、性格特性に関する調査を実施し、159名全員から回答が得られた。

調査項目は、音楽を聴くことの好き嫌い、聴くことの好きな音楽のジャンル、歌を歌うことの好き嫌い、歌うことが好きな歌のジャンル、楽器演奏の好き嫌い、演奏することの好きな楽器の種類、今までの音楽の成績、スポーツへの関心、関心のあるスポーツ種目、スポーツ実践の好き嫌い、実践したいスポーツ種目、今までの体育の成績、性格特性（活動性、気分の安定性、協調性、ねばり強さ、温厚性、緻密さ、明朗さ）である。

分析は、性格特性のねばり強さについての回答結果に基づいて、ねばり強いと回答し精神的持久力が高いと思われる73名を持続群、残りの86名を対照群として、両群の音楽志向、スポーツ志向の回答結果を比較した。さらに学生一人一人の音楽志向、スポーツ志向の回答結果をそれぞれスコアに置き換えて数字で表わし、両群のスコアの平均に統計的な有意差がないかどうか、t検定⁹⁾を用いて調べた。

尚、音楽志向ならびにスポーツ志向に関する7つの質問項目で基準としたスコアは表1に示すとおりである。

表1 音楽志向ならびにスポーツ志向に関する各質問項目のスコア

区 分		スコア
音楽を聴くこと の好き嫌い	音楽を聴くのが大変好きである	4
	どちらかというが好きである	3
	どちらかという嫌いである	2
	嫌いである	1
歌を歌うこと の好き嫌い	歌を歌うのが大変好きである	4
	どちらかというが好きである	3
	どちらかという嫌いである	2
	嫌いである	1
楽器の演奏 の好き嫌い	楽器の演奏が大変好きである	4
	どちらかというが好きである	3
	どちらかという嫌いである	2
	嫌いである	1
子どもの頃の 音楽の成績	音楽の成績がとても良かった	5
	どちらかという良かった	4
	ふつうだった	3
	どちらかという悪かった	2
	悪かった	1
スポーツへ の関心	スポーツに大変関心がある	4
	どちらかというに関心がある	3
	どちらかというに関心がない	2
	関心がない	1

区 分		スコア
スポーツ 実践の 好き嫌い	スポーツをするのが大変好き	4
	どちらかという好きである	3
	どちらかという嫌いである	2
	嫌いである	1
子どもの頃の 体育の成績	体育の成績がとても良かった	5
	どちらかという良かった	4
	ふつうだった	3
	どちらかという悪かった	2
	悪かった	1

表2 音楽志向に関する質問項目の回答結果

区 分		持久群		対照群	
		人	%	人	%
音楽を聴く ことの 好き嫌い	音楽を聴くのが大変好きである	63	86.3	64	74.4
	どちらかという好きである	10	13.7	22	25.6
	どちらかという嫌いである	0	0.0	0	0.0
	嫌いである	0	0.0	0	0.0
歌を歌う ことの 好き嫌い	歌を歌うのが大変好きである	24	32.9	24	27.9
	どちらかという好きである	38	52.1	42	48.8
	どちらかという嫌いである	10	13.7	18	20.9
	嫌いである	1	1.4	2	2.3
楽器の 演奏の 好き嫌い	楽器の演奏が大変好きである	14	19.2	18	20.9
	どちらかという好きである	40	54.8	33	38.4
	どちらかという嫌いである	17	23.3	34	39.5
	嫌いである	2	2.7	1	1.2
子どもの頃の 音楽の成績	音楽の成績がとても良かった	10	13.7	9	10.5
	どちらかという良かった	38	52.1	33	38.4
	ふつうだった	24	32.9	40	46.5
	どちらかという悪かった	1	1.4	4	4.7
	悪かった	0	0.0	0	0.0
全 体		73	100.0	86	100.0

表3 協調群と対照群のスコアの平均と有意差の有無

項 目	持久群 (73人)	対照群 (86人)	t 値
音楽を聴くことの好き嫌い	3.86±0.36	3.74±0.43	1.890
歌を歌うことの好き嫌い	3.16±0.74	3.02±0.74	1.189
楽器演奏の好き嫌い	2.90±0.84	2.79±0.76	0.867
これまでの音楽の成績	3.78±0.82	3.55±0.73	1.871
スポーツへの関心	3.25±0.75	2.94±0.76	2.579 **
スポーツ実践の好き嫌い	3.29±0.70	2.92±0.79	3.099 **
これまでの体育の成績	3.67±0.92	3.31±1.05	2.279 *

(注) ** P<0.01 * P<0.05

3. 結果と考察

(1) 両群の「音楽を聴くことの好き嫌い」についての回答結果

音楽を聴くことの好き嫌いについての回答結果をみると、持久群では「大変好き」が86%、「どちらかという好き」が14%、「どちらかという嫌い」、「嫌い」という回答はみられなかった。一方、対照群では「大変好き」が74%、「どちらかという好き」が26%、「どちらかという嫌い」、「嫌い」という回答はみられなかった。

各学生の回答結果を表1に示すようにスコアに置き換え、両群の平均スコアを比較すると、持久群が 3.86 ± 0.36 、対照群が 3.74 ± 0.43 であった。t検定の結果、両群のスコアには統計的な有意差は認められなかった。

このように、持久群では対照群に比べて「大変好き」と回答した者の比率が高く、また統計的な有意差はなかったもののスコアの平均も持久群が対照群に比べて高かったが、精神的持久力の高い者は、そうでない者に比べて音楽を聴くことを好む傾向にあることがわかった。(表1、表2、表3を参照)

(2) 両群の「聴くことが好きな音楽のジャンル」についての回答結果

聴くことが好きな音楽のジャンルについての回答結果(複数回答)をみると、持久群では「Jポップ」が81%と最も多く、以下「洋楽」27%、「Kポップ」14%、「ロック」10%、「アニメソング」7%、「吹奏楽」4%、「クラシック」4%と続き、15のジャンルに及んだ。「特になし」という回答は4%であった。一方、対照群では「Jポップ」が64%と最も多く、以下「洋楽」23%、「ロック」15%、「Kポップ」8%、「アニメソング」8%、「吹奏楽」5%、「クラシック」4%、「邦楽」4%、「バンド」4%、「ボーカロイド」4%と続き、20のジャンルに及んだ。「特になし」という回答は2%であった。尚、「特になし」を除いた回答総数は、持久群が117、対照群が128であった。

このように、両群とも「Jポップ」が最も多かったが、その比率は持久群で高かった。2～4位には両群とも「洋楽」、「Kポップ」、「ロック」が入り、大きな違いはみられなかった。(表4を参照)

表4 聴くのが好きな音楽のジャンル(複数回答)

区 分	持久群		対照群	
	人	%	人	%
Jポップ	59	80.8	55	64.0
洋楽	20	27.4	20	23.3
ロック	7	9.6	13	15.1
Kポップ	10	13.7	7	8.1
アニメソング	5	6.8	7	8.1
吹奏楽	3	4.1	4	4.7
クラシック	3	4.1	3	3.5
邦楽	2	2.7	3	3.5
バンド	2	2.7	3	3.5
ボーカロイド	0	0.0	3	3.5
リズム&ブルース	1	1.4	1	1.2
バラード	1	1.4	1	1.2
ミュージカル	1	1.4	1	1.2
ポップス	1	1.4	0	0.0
ラップ	1	1.4	0	0.0
合唱	1	1.4	0	0.0
HIPHOP	0	0.0	1	1.2
いろいろ	0	0.0	1	1.2
EDM	0	0.0	1	1.2
おだやかな曲	0	0.0	1	1.2
洋楽以外	0	0.0	1	1.2
演歌	0	0.0	1	1.2
歌謡曲	0	0.0	1	1.2
特になし	3	4.1	2	2.3
全 体	73	100.0	86	100.0

(3) 両群の「歌を歌うことの好き嫌い」についての回答結果

歌を歌うことの好き嫌いについての回答結果をみると、持久群では「大変好き」が33%、「どちらかという好き」が52%、「どちらかという嫌い」が14%、「嫌い」が1%であった。一方、対照群では「大変好き」が28%、「どちらかという好き」が49%、「どちらかという嫌い」が21%、「嫌い」が2%であった。

各学生の回答結果を表1に示すようにスコアに置き換え、両群の平均スコアを比較すると、持久群が 3.16 ± 0.74 、対照群が 3.02 ± 0.74 であった。t検定の結果、両群のスコアには統計的な有意差は認められなかった。

このように、持久群では対照群に比べて「大変好き」と「どちらかという好き」を合わせた比

率がやや高く、また統計的有意差はなかったもののスコアの平均も高いことがわかったが、精神的持久力の高い者は、そうでない者に比べて歌を歌うことを好む者が多く、歌唱活動にも前向きに取り組む傾向にあることがわかった。(表1、表2、表3を参照)

(4) 両群の「歌うことが好きな音楽のジャンル」についての回答結果

歌うことが好きな音楽のジャンルについての回答結果(複数回答)をみると、持久群では「Jポップ」が63%と最も多く、以下「Kポップ」11%、「アニメソング」6%、「洋楽」6%、「ロック」4%、「バラード」4%、「いろいろ」4%、「合唱」4%と続き、12のジャンルに及んだ。「特になし」という回答は18%であった。一方、対照群では「Jポップ」が58%と最も多く、以下「アニメソング」8%、「Kポップ」7%、「洋楽」7%、「洋楽」6%、「ロック」6%、「ボーカロイド」5%、「バラード」4%と続き、13のジャンルに及んだ。「特になし」という回答は24%であった。尚、「特になし」を除いた回答総数は、持久群が81、対照群が88であった。

このように、両群とも「Jポップ」という回答が最も多かった。2番目に多かったのは、持久群が「Kポップ」であるのに対して対照群では「アニメソング」と違いがみられた。「特になし」の回答率は対照群のほうがやや高かった。(表5を参照)

(5) 両群の「楽器を演奏することの好き嫌い」についての回答結果

楽器を演奏することの好き嫌いについての回答結果をみると、持久群では「大変好き」が19%、「どちらかというとき好き」が55%、「どちらかというとき嫌い」が23%、「嫌い」が3%であった。一方、対照群では「大変好き」が21%、「どちらかというとき好き」が38%、「どちらかというとき嫌い」が40%、「嫌い」が1%であった。

各学生の回答結果を表1に示すようにスコアに置き換え、両群の平均スコアを比較すると、持久群が 2.90 ± 0.84 、対照群が 2.79 ± 0.76 であった。t検定の結果、両群のスコアには統計的な有意差は認められなかった。

このように、持久群では対照群に比べて「大変

好き」と「どちらかというとき好き」を合わせた比率が高く、また統計的有意差はなかったもののスコアの平均も高いことがわかったが、精神的持久力の高い者は、そうでない者に比べて楽器の演奏を好む者が多く、演奏活動にも前向きに取り組む傾向にあることがわかった。逆に、対照群は持久群に比べて、楽器の演奏を好まない者の比率が高い傾向にあったが、楽器の演奏にはくり返し練習が必要であり、精神的持久力が弱いと習得が困難になることから、演奏を好まない者の比率が高くなっているのではないかと考えられた。(表1、表2、表3を参照)

表5 歌うことが好きな音楽のジャンル(複数回答)

区 分	持久群		対照群	
	人	%	人	%
Jポップ	46	63.0	50	58.1
Kポップ	8	11.0	6	7.0
アニメソング	4	5.5	7	8.1
洋楽	4	5.5	6	7.0
ロック	3	4.1	5	5.8
バラード	3	4.1	3	3.5
いろいろ	3	4.1	1	1.2
合唱	3	4.1	1	1.2
邦楽	2	2.7	2	2.3
ボーカロイド	0	0.0	4	4.7
ポップス	2	2.7	0	0.0
バンド	2	2.7	0	0.0
テクノポップ	1	1.4	0	0.0
歌謡曲	0	0.0	1	1.2
昔の歌	0	0.0	1	1.2
テレビ主題歌	0	0.0	1	1.2
特になし	13	17.8	21	24.4
全 体	73	100.0	86	100.0

(6) 両群の「演奏することの好きな楽器の種類」についての回答結果

演奏することが好きな楽器の種類についての回答結果(複数回答)をみると、持久群では「ピアノ」が73%と最も多く、以下「クラリネット」11%、「ギター」6%と続き、13種類に及んだ。「特になし」という回答は27%であった。一方、対照群では「ピアノ」が41%と最も多く、以下「ギター」6%、「ドラム」5%、「フルート」4%、「打楽

器全般」4%、「ホルン」4%、「ベース」4%と続き、21種類に及んだ。「特になし」という回答は42%であった。尚、「特になし」を除いた回答総数は、持久群が78、対照群が73であった。

このように、両群とも「ピアノ」という回答が最も多かったが、その比率は持久群で高かった。「特になし」と回答した者の比率は対照群で高かった。(表6を参照)

表6 演奏することが好きな楽器(複数回答)

区 分	持久群		対照群	
	人	%	人	%
ピアノ	53	72.6	35	40.7
クラリネット	8	11.0	2	2.3
ギター	4	5.5	5	5.8
フルート	2	2.7	3	3.5
打楽器全般	1	1.4	3	3.5
ホルン	1	1.4	3	3.5
ドラム	0	0.0	4	4.7
タンバリン	2	2.7	1	1.2
トランペット	2	2.7	1	1.2
サクソフォーン	1	1.4	2	2.3
ベース	0	0.0	3	3.5
リコーダー	1	1.4	1	1.2
ファゴット	1	1.4	1	1.2
いろいろ	0	0.0	2	2.3
ベル	1	1.4	0	0.0
和太鼓	1	1.4	0	0.0
トロンボーン	0	0.0	1	1.2
ハープ	0	0.0	1	1.2
木琴	0	0.0	1	1.2
鉄琴	0	0.0	1	1.2
オーボエ	0	0.0	1	1.2
シロフォン	0	0.0	1	1.2
ユーフォニウム	0	0.0	1	1.2
特になし	20	27.4	36	41.9
全 体	73	100.0	86	100.0

(7) 両群の「これまでの音楽の成績」についての回答結果

これまでの音楽の成績についての回答結果を見ると、持久群では「とても良かった」が19%、「どちらかという良かった」が55%、「ふつうだった」が23%、「どちらかという悪かった」が1%、「悪かった」という回答はみられなかった。

一方、対照群では「とても良かった」が11%、「どちらかという良かった」が38%、「ふつうだった」が47%、「どちらかという悪かった」が5%、「悪かった」という回答はみられなかった。

各学生の回答結果を表1に示すようにスコアに置き換え、両群の平均スコアを比較すると、持久群が 3.78 ± 0.82 、対照群が 3.55 ± 0.73 であった。t検定の結果、両群のスコアには統計的な有意差は認められなかった。

このように、「とても良かった」という回答、「どちらかという良かった」という回答のいずれの比率も持久群のほうが高く、また統計的な有意差はなかったもののスコアの平均も持久群のほうが高かったが、精神的持久力が高いことが音楽活動へのねばり強い取り組みをもたらし、結果的に音楽の成績にも反映しているのではないかと考えられた。(表1、表2、表3を参照)

(8) 両群の「スポーツへの関心」についての回答結果

スポーツへの関心についての回答結果を見ると、持久群では「大変関心がある」が43%、「どちらかという関心がある」が43%、「どちらかという関心がない」が12%、「関心がない」が3%であった。一方、対照群では「大変関心がある」が23%、「どちらかという関心がある」が52%、「どちらかという関心がない」が20%、「関心がない」が5%であった。

各学生の回答結果を表1に示すようにスコアに置き換え、両群の平均スコアを比較すると、持久群が 3.25 ± 0.75 、対照群が 2.92 ± 0.79 であった。t検定の結果、両群のスコアには統計的な有意差が認められた。

このように、持久群は対照群に比べて、「大変関心がある」と回答した者の比率が高く、またスコアの平均も有意に高かったが、精神的持久力が高い者ほど継続的にスポーツに取り組む姿勢を身につけていると考えられ、このような姿勢をもつ者はそうでない者に比べて、スポーツへの関心も当然高いものと思われる。(表1、表3、表7を参照)

表7 スポーツ志向に関する質問項目の回答結果

区 分		持久群		対照群	
		人	%	人	%
スポーツ への関心	スポーツに大変関心がある	31	42.5	20	23.3
	どちらかというに関心がある	31	42.5	45	52.3
	どちらかというに関心がない	9	12.3	17	19.8
	関心がない	2	2.7	4	4.7
スポーツ実践 の好き嫌い	スポーツをするのが大変好き	32	43.8	22	25.6
	どちらかという好きである	32	43.8	38	44.2
	どちらかという嫌いである	7	9.6	23	26.7
	嫌いである	2	2.7	3	3.5
子どもの頃の 体育の成績	体育の成績がとても良かった	15	20.5	9	10.5
	どちらかという良かった	28	38.4	33	38.4
	ふつうだった	23	31.5	27	31.4
	どちらかという悪かった	5	6.8	10	11.6
	悪かった	2	2.7	7	8.1
全 体		73	100.0	86	100.0

表8 関心のあるスポーツの種類（複数回答）

区 分	持久群		対照群	
	人	%	人	%
サッカー	15	20.5	27	31.4
バレーボール	22	30.1	14	16.3
野球	18	24.7	15	17.4
バスケット	12	16.4	17	19.8
バトミントン	11	15.1	9	10.5
テニス	10	13.7	6	7.0
陸上競技	4	5.5	5	5.8
水泳	4	5.5	4	4.7
スケート	2	2.7	6	7.0
球技全般	5	6.8	2	2.3
卓球	2	2.7	5	5.8
ダンス	3	4.1	1	1.2
剣道	1	1.4	2	2.3
空手	1	1.4	2	2.3
バレー	0	0.0	2	2.3
新体操	0	0.0	2	2.3
ハンドボール	0	0.0	2	2.3
スキー	1	1.4	0	0.0
ラケットスポーツ	1	1.4	0	0.0
ダーツ	1	1.4	0	0.0
自転車競技	1	1.4	0	0.0
ウィンタースポーツ	1	1.4	0	0.0
ドッジボール	1	1.4	0	0.0
弓道	1	1.4	0	0.0
ソフトボール	1	1.4	0	0.0
ラグビー	0	0.0	1	1.2
筋トレ	0	0.0	1	1.2
ボクシング	0	0.0	1	1.2
特になし	12	16.4	21	24.4
全 体	73	100.0	86	100.0

表9 実際に取り組んでみたいスポーツの種類（複数回答）

区 分	持久群		対照群	
	人	%	人	%
バスケットボール	19	26.0	20	23.3
バトミントン	17	23.3	18	20.9
バレーボール	19	26.0	14	16.3
テニス	18	24.7	6	7.0
サッカー	6	8.2	10	11.6
水泳	5	6.8	4	4.7
卓球	3	4.1	6	7.0
球技全般	6	8.2	1	1.2
陸上競技	4	5.5	3	3.5
野球	3	4.1	4	4.7
ダンス	3	4.1	2	2.3
ソフトボール	3	4.1	1	1.2
ハンドボール	1	1.4	2	2.3
スポーツ全般	1	1.4	2	2.3
ドッジボール	2	2.7	0	0.0
ラケットスポーツ	1	1.4	1	1.2
剣道	1	1.4	1	1.2
新体操	0	0.0	2	2.3
スケート	1	1.4	0	0.0
集団でやるスポーツ	1	1.4	0	0.0
弓道	1	1.4	0	0.0
ホッケー	1	1.4	0	0.0
自転車競技	1	1.4	0	0.0
アスレチック	1	1.4	0	0.0
バレー	0	0.0	1	1.2
なわとび	0	0.0	1	1.2
身体活動	0	0.0	1	1.2
ジョギング	0	0.0	1	1.2
筋トレ	0	0.0	1	1.2
特になし	10	13.7	27	31.4

(9) 両群の「関心のあるスポーツの種類」についての回答結果

関心のあるスポーツの種類についての回答結果（複数回答）をみると、持久群では「バレーボール」が30%と最も多く、以下「野球」25%、「サッカー」21%、「バスケット」16%、「バトミントン」15%、「テニス」14%、「球技全般」7%、「陸上競技」6%、「水泳」6%、「ダンス」4%と続き、22種類に及んだ。「特になし」という回答は16%であった。一方、対照群では「サッカー」が31%と最も多く、以下「バスケット」20%、「野球」17%、「バレーボール」16%、「バトミントン」10%、「テニス」7%、「スケート」7%、「陸上競技」6%、「卓球」6%、「水泳」5%と続き、20種類に及んだ。「特になし」という回答は24%であった。尚、「特になし」を除いた回答総数は、持久群が118、対照群が124であった。

このように、最も関心のあるスポーツは持久群が「バレーボール」、対照群が「サッカー」と違いがみられ、2位以下のスポーツの順位も両群で違いがみられた。また「特になし」という回答は対照群でやや多かった。（表8を参照）

(10) 両群の「スポーツ実践の好き嫌い」についての回答結果

スポーツ実践の好き嫌いについての回答結果をみると、持久群では「大変好き」が44%、「どちらかというとき好き」が44%、「どちらかというとき嫌い」が10%、「嫌い」が3%であった。一方、対照群では「大変好き」が26%、「どちらかというとき好き」が44%、「どちらかというとき嫌い」が27%、「嫌い」が4%であった。

各学生の回答結果を表1に示すようにスコアに置き換え、両群の平均スコアを比較すると、持久群が 3.29 ± 0.70 、対照群が 2.92 ± 0.79 であった。t検定の結果、両群のスコアには統計的な有意差が認められた。

このように、持久群は対照群に比べて、「大変好き」と回答した者の比率がとて高く、またスコアの平均も有意に高かったが、精神的持久力が高いことがねばり強くスポーツに取り組む姿勢につながり、スポーツ実践を好む結果をもたらしているのではないかと考えられた。（表1、表3、表7を参照）

(11) 両群の「実践することが好きなスポーツの種類」についての回答結果

実践することが好きなスポーツの種類についての回答結果（複数回答）をみると、持久群では「バスケット」と「バレーボール」とともに26%と最も多く、以下「テニス」25%、「バトミントン」23%、「サッカー」8%、「球技全般」8%、「水泳」7%、「陸上競技」6%、「卓球」4%、「野球」4%、「ダンス」4%、「ソフトボール」4%と続き、23種類に及んだ。「特になし」という回答は14%であった。一方、対照群では「バスケット」が23%と最も多く、以下「バトミントン」21%、「バレーボール」16%、「サッカー」12%、「テニス」7%、「卓球」7%、「水泳」5%、「野球」5%、「陸上競技」4%と続き、22種類に及んだ。「特になし」という回答は31%であった。尚、「特になし」を除いた回答総数は、持久群が118、対照群が102であった。

このように、上位4位までの種目は、持久群が「バスケット」、「バレーボール」、「テニス」、「バトミントン」、対照群が「バスケット」、「バトミントン」、「バレーボール」、「サッカー」であり、両群で多少違いがみられた。また「特になし」と回答した者は対照群で多く、その比率は持久群の2倍以上に達していた。これらのことから精神的持久力の高い者とそうでない者で、スポーツ実践への意識や取り組みに違いがみられるのではないかと考えられた。（表9を参照）

(12) 両群の「これまでの体育の成績」についての回答結果

これまでの体育の成績についての回答結果をみると、持久群では「とても良かった」が21%、「どちらかというとき良かった」が38%、「ふつうだった」が32%、「どちらかというとき悪かった」が7%、「悪かった」が3%であった。一方、対照群では「とても良かった」が11%、「どちらかというとき良かった」が38%、「ふつうだった」が31%、「どちらかというとき悪かった」が12%、「悪かった」が8%であった。

各学生の回答結果を表1に示すようにスコアに置き換え、両群の平均スコアを比較すると、持久群が 3.67 ± 0.92 、対照群が 3.31 ± 1.05 であった。t検定の結果、両群のスコアには統計的な有意差

が認められた。

このように、持久群は対照群に比べて、「とても良かった」と答えた者の比率が高く、スコアの平均も有意に高かったが、精神的持久力が高いことがスポーツへの継続的で意欲的な取り組みにつながり、結果的に体育の成績にも反映しているのではないかと考えられた。(表1、表3、表7を参照)

4. まとめ

学生の精神的持久力の高さと音楽志向・スポーツ志向の関連性の分析を通して次のようなことが明らかになった。

- (1) 持久群は対照群に比べて、音楽を聴くことを好む者、歌を歌うことを好む者、楽器の演奏を好む者、これまで音楽の成績が良かった者が多い傾向にあった。
- (2) 聴くことの好きな音楽のジャンルは、両群とも「Jポップ」が最も多かったが、その比率は持久群で高かった。2～4位には両群とも「洋楽」、「Kポップ」、「ロック」が入り、大きな違いはみられなかった。
- (3) 歌うことが好きな音楽のジャンルは、両群とも「Jポップ」という回答が最も多かった。2番目に多かったのは、持久群が「Kポップ」であるのに対して対照群では「アニメソング」と違いがみられた。「特になし」の回答率は対照群のほうがやや高かった。
- (4) 演奏することが好きな楽器の種類は、両群とも「ピアノ」という回答が最も多かったが、その比率は持久群で高かった。「特になし」と回答した者の比率は対照群で高かった。
- (5) 持久群は対照群に比べて、スポーツへの関心が高い者、スポーツの実践を好む者、これまで体育の成績が良かった者が多い傾向にあった。
- (6) 最も関心のあるスポーツは、持久群が「バレーボール」、対照群が「サッカー」と違いがみられ、2位以下のスポーツの順位も両群で違いがみられた。また「特になし」という回答は対照群でやや多かった。
- (7) 実際に取り組んでみたいスポーツの上位4位までの種目は、持久群が「バスケット」、「バレーボール」、「テニス」、「バトミントン」、対照群が「バスケット」、「バトミントン」、「バレーボール」、「サッカー」であり、両群で順位などに多少違いがみられた。また「特になし」と回答した者は対照群で多く、その比率は持久群の2倍以上に達していた。

<注>

- 1) 澤田優子、澤田孝二：短期大学学生の音楽志向・スポーツ志向・性格特性の関連性の有無の分析，山梨学院短期大学研究紀要第38巻，83-91. (2018)
- 2) 澤田優子、澤田孝二：短期大学学生の音楽志向・スポーツ志向・性格特性の関連性の有無の分析(2) - 活動性の高さに着目して -，山梨学院短期大学研究紀要第39巻，73-81. (2019)
- 3) 澤田優子、澤田紀子、澤田孝二：短期大学学生の音楽志向・スポーツ志向・性格特性の関連性の有無の分析(3) - 協調性の高さに着目して -，山梨学院短期大学研究紀要第40巻，119-128. (2020)
- 4) 澤田紀子、澤田優子、澤田孝二：短期大学学生の音楽志向・スポーツ志向・性格特性の関連性の有無の分析 - 気分の安定性に着目して -，2019年度健康教育研究会研究報告書，16-24. (2020)
- 5) 岡 朋子：音楽的能力と他の能力について - リズムに関する音楽的能力と運動能力との関係 -，兵庫教育大学学校教育学部卒業論文，1-16. (1995)
- 6) 麻 書洋：音楽と身体能力との関連性について - 好みの音楽聴取視点として -，人間発達学研究第6号，129-130. (2015)
- 7) 杵鞭宏美：スポーツ活動と音楽聴取に関する基本的考察 - 大学生と社会人によるアンケート調査から -，昭和音楽大学研究紀要第26号，48-60. (2006)
- 8) 広瀬優花、岩永 誠、安田晶子：大学生の音楽の好みと性格の関連 - 性格特性がジャンルの一般的な好みを与える影響 -，日本心理学会第76回大会発表論文集，678. (2012)
- 9) 福富和夫、永井正規、中村好一、柳川 洋：ヘルスサイエンスのための基本統計学，南山堂，76-80. (1989)

<参考文献>

- ・澤田優子、澤田孝二：音楽鑑賞のリラクゼーション効果についての一考察，山梨学院短期大学研究紀要第36巻，115-120. (2016)
- ・古佐小基史：トータルヘルスと音楽，保健の科学第54巻，703-707. (2012)
- ・小島正憲：音楽がスポーツパフォーマンスに与える影響，東海学院大学研究紀要第8号，217-224. (2014)
- ・大森英美：運動中の身体に及ぼす音楽の影響，東京女子体育大学研究紀要第20号，62-78. (1985)

- ・貫 行子、長田 乾、川上 央：音楽聴取による脳波変動と気分変化、音楽選好と性格特性の関連性，情報処理学会研究報告音楽情報科学，35-40. (2004)
- ・小竹訓子、中村恵子、高橋由紀：音楽療法のリラクゼーション効果に関する研究，県立長崎シーボルト大学研究紀要第5号，1-10. (2005)
- ・松本じゅん子：音楽の気分誘導効果に関する実証的研究，教育心理学研究第50巻，23-32. (2002)
- ・荒金英理子、川出富貴子：音を聴くこと、歌を歌うことによるリラクゼーション作用 - 身体的および心理的变化 -，川崎医療福祉学会誌第19巻，105-111. (2009)
- ・澤田孝二、澤田由美：短期大学学生の性格特性がスポーツ行動および心身の健康に及ぼす影響，山梨学院短期大学研究紀要第34巻，63-73. (2014)